

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 4月 8日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4291500066		
法人名	一般社団法人 島宝		
事業所名	グループホーム おぢかの家		
所在地	〒857-4701 長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷 1466 番地 1		
自己評価作成日	H26年2月15日	評価結果市町受理日	H26年4月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 3月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

開設から3年余りになりますが、開設当初より地域に密着したホームではなかったかと思えます。地域の方も気軽に来て頂けるような環境とホームへの入所希望や問い合わせも多く、地域の方からも“おぢかの家”に入りたいという声が聞かれます。ホームの良いところは、回りの環境に恵まれホーム内も明るく職員も利用者も毎日生き生きと笑顔で楽しく過ごしていることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

当該ホームは、開設3年目であり近くには神社や商店街があり住宅地の一角に位置している。地域密着型のグループホームであり行政、地元住民からの積極的な関わりにより助けや見守りを頂き協力体制が出来ている。入居者が安心して最後まで元気に過ごしていただくよう施設長、職員は入居者個々の思いに寄り添い支援している。職員は元気で明るいので働き易く楽しく入居者にはありのままの様子を話すことで信頼関係が出来て共同生活を送られた仲間のお見送りもされており、後の会話の中にも話題に上る事もあり、人生の喜怒哀楽を感じる事で生活の延長に取り組まれている。職員の島外研修の困難はあるが積極的に島内の各研修に参加しており介護支援に繋がる資格取得などの意欲が伺える。施設長、職員は入居者一人一人に真摯に向き合う支援を実践しており、更に期待できるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼では”理念”の昭和をおこない職員全員が事業所の理念に沿ったケアを心掛けている	施設長の思いから掲げている理念を職員全員が共有し、家庭的な雰囲気の中、その人らしい暮らしや安心安定した生活が送れるように、それに沿った恥かしく無い支援を提供、日々実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会にも招待して頂いたり町の行事にも参加している	住宅地の中心にあり町内会にも加入しており地域住民との関わりが頻繁にある。地区敬老会や町全体の祭りに参加されており、地域の子育てサークルの訪問の受け入れもされている。保育所と交流をする為に働きかけを行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談にも対応し、グループホームの在り方等を説明している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しホームの利用状況や活動報告をしながら参加者からの助言等を踏まえてサービスに活かしている	運営推進会議は年6回行ない職員に司会、入居者も参加されている。状況報告、行事報告、意見交換など活発に行なわれている。初回は年間事業報告、入居者の日々の生活状況をビデオ鑑賞にて報告している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの問い合わせや入所状況等も報告し、必要があれば協力を得ている	町の行事にも招待があり各種の情報は頂いている。日頃から町との連携が出来ており入居者の依頼があり相談等も行なわれて協力関係が出来ている。島内の研修にも職員は積極的に参加している。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日々のケアの中で、身体拘束に繋がらないようにケアカンファレンス等で話し合いながら取り組んでいる</p>	<p>契約書には身体拘束も謳っているがしないケアに取り組んでいる。身体拘束は正しく理解されており施設長は日々の支援の中で随時拘束に関しての話はされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する研修会があるときは、職員も参加し、虐待に繋がる行為がないように注意している</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>対応が必要と思われ対象者がいる場合は、随時アドバイスができるように資料は用意している</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事業所の方針や取り組みを丁寧に説明し、改定等があるときも文書にて通知している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族にはサービス計画書作成時や来所時に希望や要望を聞き、いつでも気遣いなく話せるような関係をつくっている</p>	<p>意見箱を設置しているが活用には到っていない。地域柄職員と入居者は顔見知りであり生活歴も把握されて何でも話せる関係である。家族や親戚が利用料持参時に積極的に話す機会を作っている。</p>	<p>施設長は入居者、家族の意見や要望をさらに表せる機会作りとしてアンケート等の取り組みを実施する事によりサービスの向上へ繋げたいとの思いがあり、今後の取組みに期待したい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に2回は職員と面談して、要望や不満等を聞く機会をつくっている</p>	<p>定期的に年2回職員個々の要望や意見を聞く機会を設けている。施設長の職員への思いは厚く、意見や提案を取り入れ実践へ繋げ、次のカンファレンスにおいて検討し運営に反映している。</p>	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日現場に出て、職員の不満やストレスの要因についても気を配り、職員が楽しく仕事ができる環境づくりに努めている		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会等、必要があれば出来る限り全職員が参加できるようにしている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に1回、他事業所の職員と利用者との交流会をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、利用者本人と家族の要望を聞きながらホームでの生活をおくれるように話し合っている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、利用者本人と家族の要望を聞きながらホームでの生活をおくれるように話し合っている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況を聞きながら家族が求めていることや事業所に対しての要望を話し合っている		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所申込みの段階で家族や居宅のケアマネジャーとも話し合い利用者の生活状況を把握した上でサービスの開始をしている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が生きてきた人生での生活文化を覚えてもらう場面もあり、感謝の気持ちを表しながら対応している		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人等とも出会う場所に向いて行ったり、希望があれば入所前から利用している美容室にも出向いている	地域柄入居者同士がなじみの関係であり共通の友人である。神社の祭りや公民館の行事に出かけるなど支援されており、行きたい場所があれば同行して外出している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も入所前から馴染みの関係があったり、利用者同士が助け合っている場面もみられる		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例はないがサービスを利用が終了された方のご家族とも継続的な付き合いができるように心掛けている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中でも、利用者本位を原則にご本人にとってどのようなケアをしていくことが良いかをケアカンファレンスもおいて話し合っている	センター方式を取り入れ、入居者の思いや意向は施設長、職員は把握されており、その人らしい暮らしが出来るよう支援しているが、身体低下の傾向もあり無理強いしない方法に苦慮されている。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使ってご本人の情報を基に、これまでの生活歴や馴染みの暮らしを把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの能力に応じて役割分担を決めフォローしながら支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望や家族の希望を聞き取りながら、アセスメントし、カンファレンスにおいて職員全員で意見交換をおこなっている	職員は利用者一人一人の担当制を取り作成前に家族の意見要望を聞いている。月1回のカンファレンス会議で検討し、計画書作成、介護日誌記録の中に番号を打って確認を取る工夫が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別に記録し、申し送りをしながら職員間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の希望に添える用に可能な限り柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においても地区の会長や民生委員に相談しながら協力を得られている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は職員が同行し、変化があれば家族への報告もおこなっている。また、必要に応じて往診もしてもらっている	職員が通院介助を行い、全入居者は小値賀町国民健康保険診療所がかかりつけ医であり昼夜対応してもらえる。受診後は家族への報告も行なわれている。眼科受診は外部からの往診を受けられている。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが常に利用者の健康管理を把握し、状態変化に応じて主治医や看護師に相談できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを最小限に防ぐために医師と話し合い、事業所内での対応可能な段階で早く退院できるように伝えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族の意向を踏まえ医師と連携を取り、事業所が対応し得るケアについて説明をおこなっている	ホームの方針としては看取りは行なう予定であり、医療関係との連携はできている。マニュアルは作成しており契約時には家族に説明をし重度化した場合は再度説明を行う。3名の看取りを経験された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や自己発生時に備えての対応についてマニュアルを作成し周知徹底している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら年2回、利用者とともに避難訓練を実施している。地域の協力体制についても運営推進会議において協力をお願いしている	避難訓練は昼間想定（消防署立会い）、夜間想定（自主訓練）の年2回行われ入居者参加、避難場所、緊急時連絡体制を確立している。4月に消防団の協力参加を予定している。備蓄に関しては飲料水を確保している。	地域住民（消防団員）の協力に伴い、持ち出しファイルに入居者確認として写真の添付、離島を考慮し自然災害時に食料品を確保、一覧表作成が望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライバシーを配慮しながら言葉かけも命令口調にならないような声かけを実施している	職員は方言を交えながら敬う言葉かけや対応をされている。職員の気になる対応は施設長が言葉を選び注意し改めている。島内研修は全職員参加しているが、ホーム内の研修は実践である。個人情報ファイルは事務所に保管管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人当たりの状態に合わせた言葉かけをおこないご本人の思いや希望が言えるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、ご本人の希望に応じたレク活動や参加の呼びかけをおこなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の要望におじて馴染みの理容室に出かけたり、ご本人のお気に入り洋服を選んでもらったりしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は利用者と職員が一緒におこない、食事前にはメニューの紹介を楽しく食事できるように配慮している	メニューは1週間分施設長が作成し、女性職員が調理担当である。海の幸の差し入れが多く入居者の喜びである。外食として入居者の関係者の居酒屋へ行かれない体験にも取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握しており、好き嫌いがある利用者には個別メニューを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて毎食後口腔ケアをおこない、自分のできる方は声かけ、見守りをしている		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、個々に応じたトイレ誘導、見守りを行っている	日中はこまめなトイレ誘導で尿パットの使用が少なくなった。夜間は身体的な状況に応じてポータブルトイレやオムツを使用しているが、殆どトイレ誘導にて支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理が必要な利用者は、排便の状態を職員が把握し、便秘の方には飲み物で工夫したり、ご本人処方の緩下剤にて調整している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりがゆったりと入浴できるように個別に入浴介助をおこない、時間をかけて楽しみながら入浴できるように支援している	3人を目標に入浴剤を使用し、ゆっくり入浴できる取り組みをされているが毎日入浴可能である。入浴拒否の方も無理強いはしていないが最低週2回入浴してもらおうよう柔軟な対応で支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い利用者には、日中の活動を工夫し、できる限り眠剤を使わないような支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を理解できるように病院受診にも同行し、処方の変更があった場合でも病院受診ノートに記録し、報告をおこなっている		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみごとを話し合い、利用者が楽しみしている町の行事等にも参加している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や町の行事等がある時は利用者全員で出かけている。また、ご本人の希望があればドライブしながら好きな場所への出向いている	家族の協力により寺の行事に出かけたり、入居者の意向に沿って個別にホーム周辺の散歩や天候や体調を考慮し花見等支援されている。今後は月1回、公園に手づくり弁当を持参し外出する機会を取り組む予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たないと不安な利用者に対しては、家族と話し合い所持金の確認をしたうえでご本人に持たせて、希望があれば職員付き添いで買い物へも出かける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、家族と直接連絡がとれるようにしている。手紙や荷物が届いた時には、ご本人がお礼の電話ができるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりも良く利用者が活動しやすい広さになっている。飾り付けも季節に応じて皆で作ったり行事の写真を飾ったりしている	共用空間は職員と入居者共に清掃し快適な空間となるよう努め、自然の光の暖かさや小鳥のさえずり等季節を感じる事が出来る場所にソファを配置し、入居者はテレビの視聴や語らいの場としてゆったりと寛がれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ほソファは、皆がゆったりと過ごせる配置になっており、仲のよい利用者同士が一緒に談話できるようになっている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、できる限り使いなれた家具を持ってきてくれるように話し、ベッドや家具もご本人が使いやすい配置にしている	広い居室にベッド以外は入居者が使い慣れた調度品を持参されており、好みのレイアウトでその人らしい居心地の良い居室作りがなされている。又、職員は快適に過ごしていただけるよう清掃、換気に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて職員で話し合いながらご本人の不安や混乱が起きないように環境整備に努めている		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)			1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない